

# グラフで見る熱中症による労働災害 重症化のリスク

神奈川県労働局管内の平成31年1月から令和元年12月までの熱中症による労働災害で、

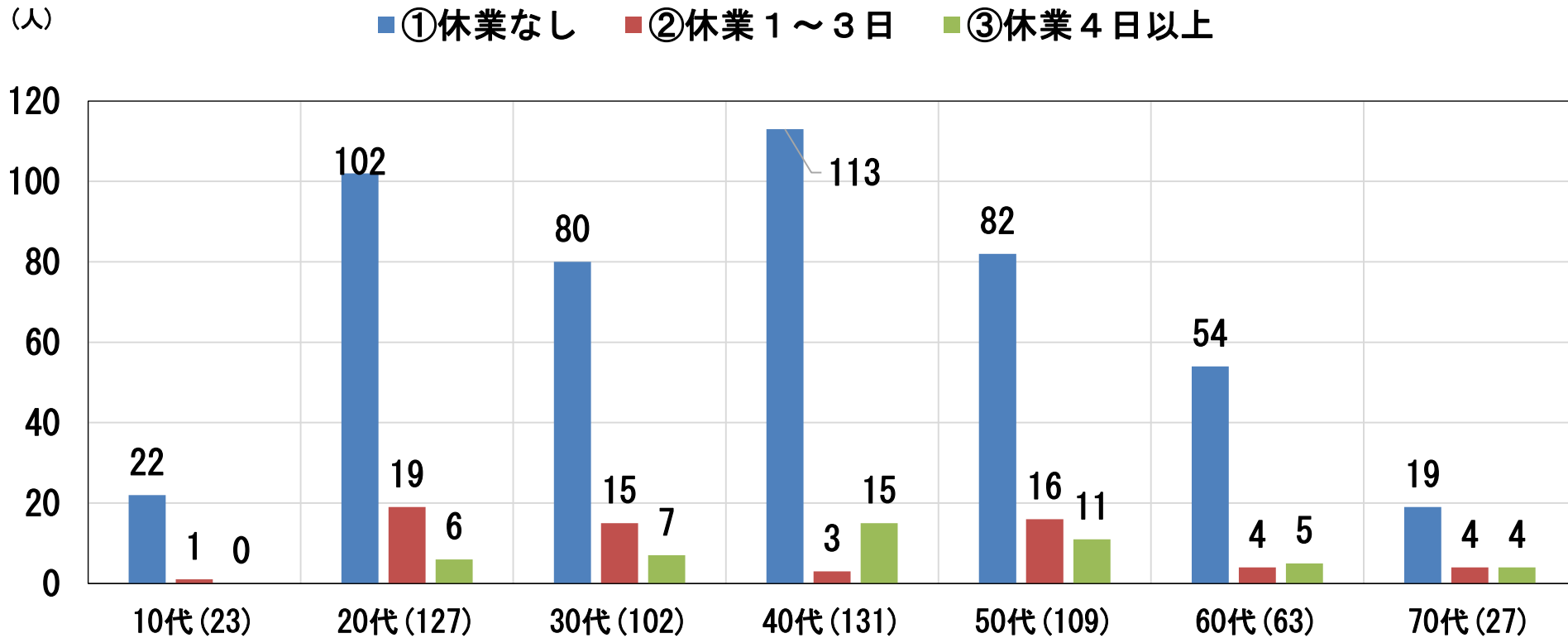
- ①休業なしで療養：472件（労災保険の療養の給付請求書から把握）
- ②休業4日未満：62件（労働者死傷病報告：様式第24号から把握）
- ③休業4日以上：48件（労働者死傷病報告：様式第23号から把握）

からの考察。

## 被災者の年齢

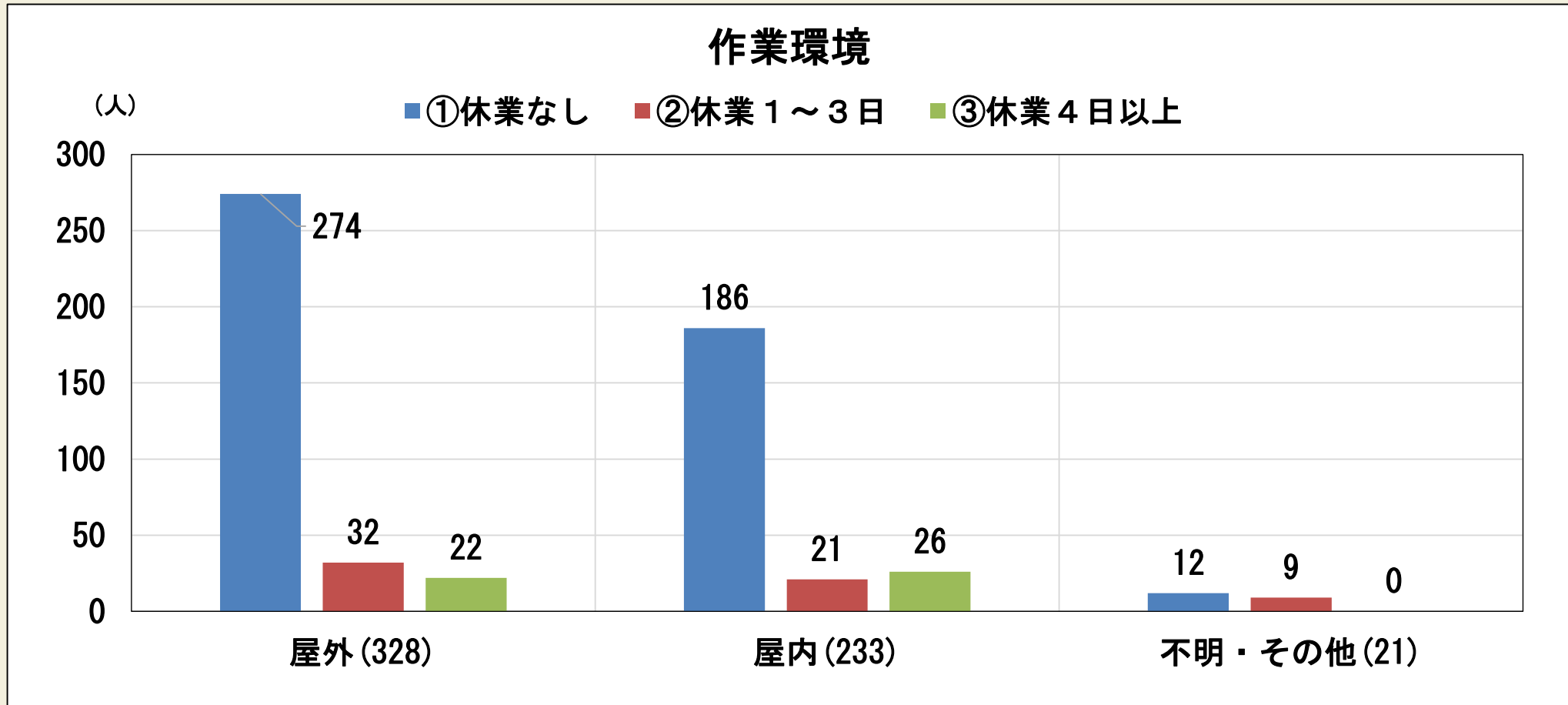
熱中症は高齢者だけでなく、若年の労働者にも多く発生している。重症化という観点から見ると、40代以上では「休業4日以上」の人数が増える傾向が見られる。

### 被災者の年齢別構成



## 作業環境

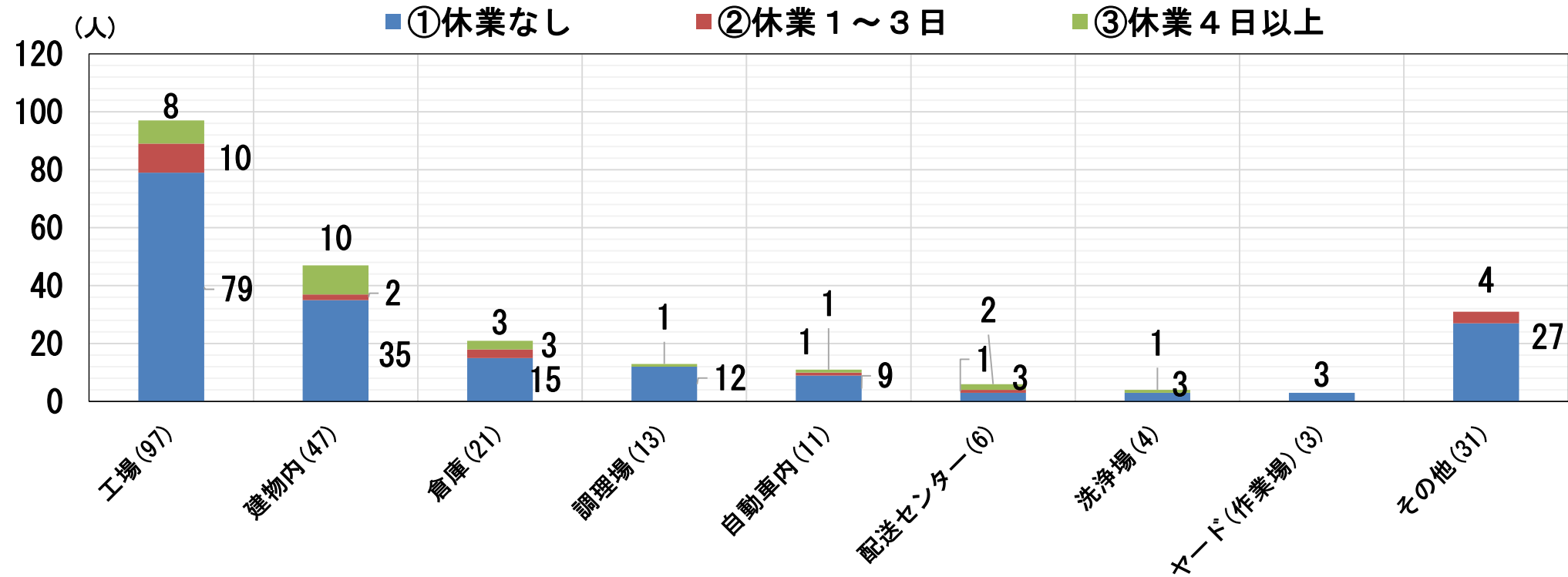
「屋外」は328人、「屋内」は233人と、「屋外」が約6割、「屋内」が約4割であった。



## 屋内の作業場所

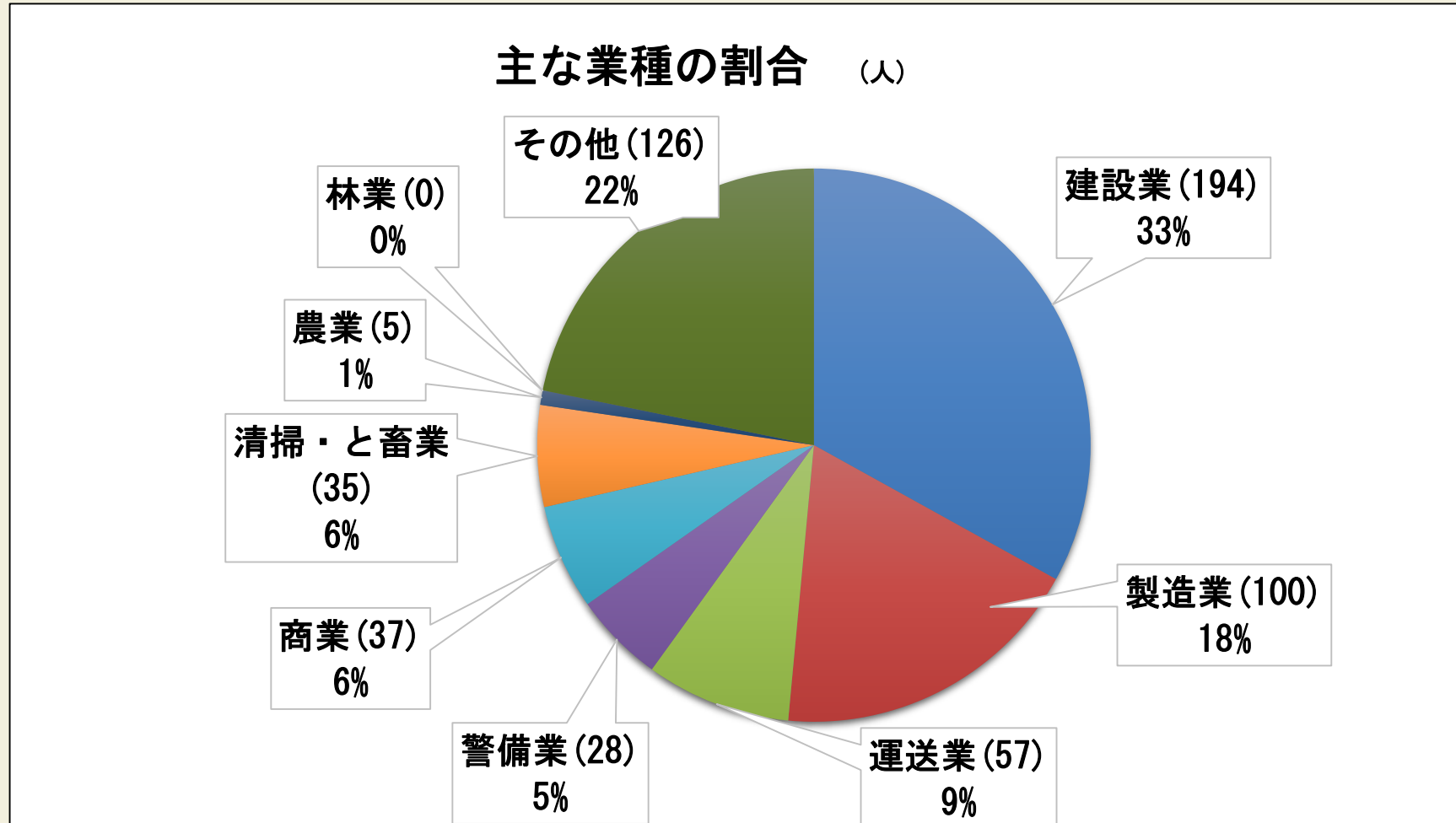
最多は「工場」で、次に多いものは「建物内」。建物内の発症は、事務所の中でも倉庫や階段室、店舗のバックヤード、飲食店の接客中のホールや屋外販売窓口、設備据付や営業による訪問先など、温度や湿度などの調節が困難な環境において発症している。

## 屋内の内訳



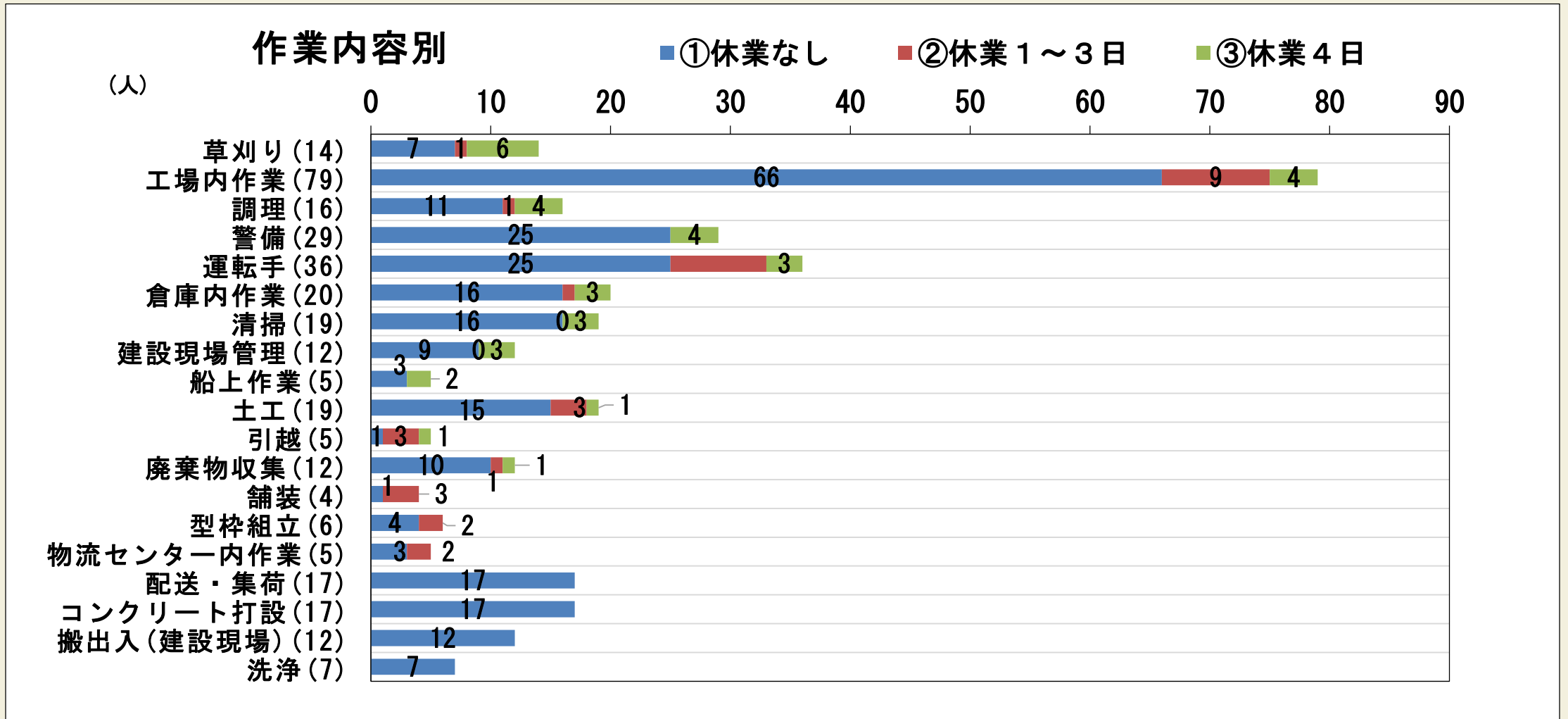
## 業種

最多は「建設業」(33%)、次に「製造業」(18%)で、この2業種で半数を占める。次いで多いのは「運送業」、「商業」、「清掃・と畜業」、「警備業」である。「清掃・と畜業」は産業廃棄物処理業の事業場で多く発生している。



## 作業内容

発生のは数が最多が「工場内作業」79人、比較的多数であるものは「運転手」36人、「警備」29人、「倉庫内作業」20人、「土工」19人、「清掃」19人である。

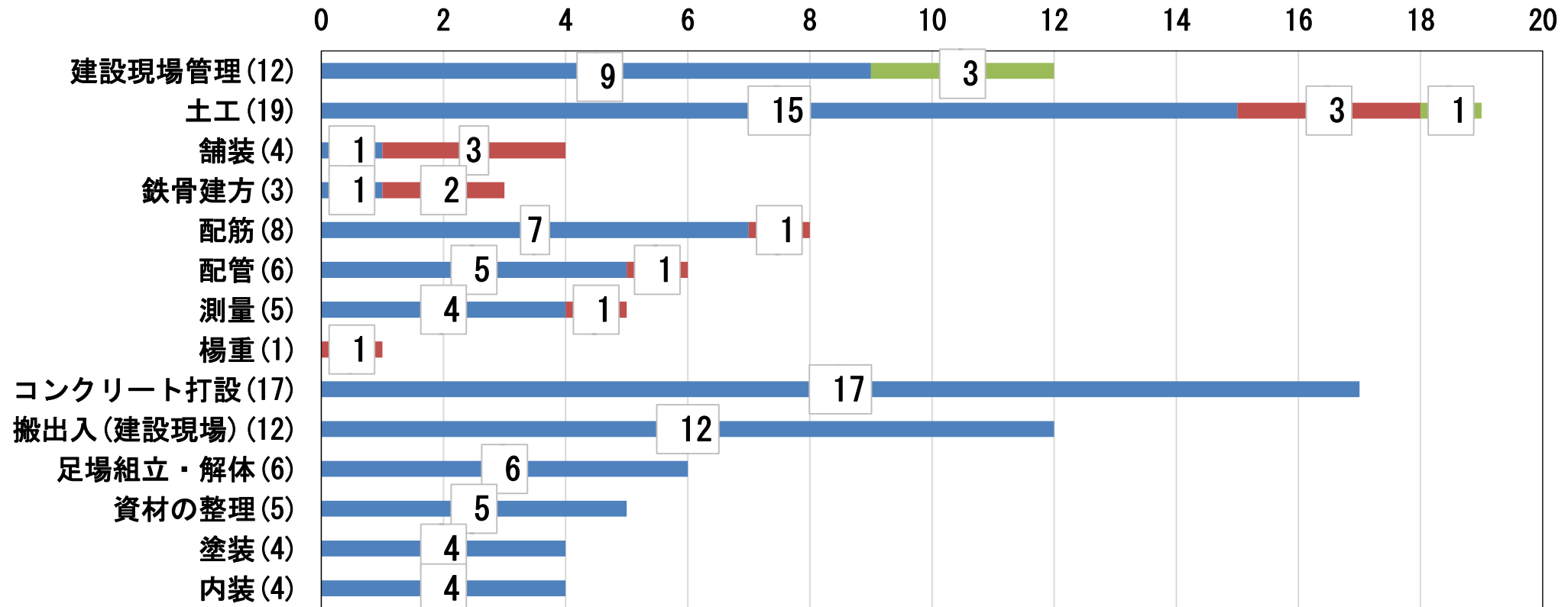


## 建設業の作業内容

休業災害は「現場管理」、「土工」、「舗装」、「鉄骨建方」、「配筋」、「配管」、「測量」、「揚重」の作業で発生している。「現場管理」は令和元年に死亡災害が発生した。

(人) 建設業の作業内容別

■①休業なし ■②休業1～3日 ■③休業4日



## 熱中症重症化を防止するために

- 年齢が40代以上であること
- 屋外、屋内に共に危険な要因はあること
- 屋内なら工場内、又は、気温、湿度の調節が困難な環境であること
- 建設業、製造業、運送業の業種であること
- 従事する作業が「草刈り」、「工場内作業」、「調理」、「警備」、「運転手」、「倉庫内作業」、「清掃」、「建設業の屋外作業及び現場管理」であること

以上に該当する点が多い場合、重症化に注意が必要と言える。